授業科目	理学療法	法課題研	开究ⅡB		担当教員	竹中 謙将					
 対象年次・学期	4 年・前	 前期		必何	 多・選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間			
授業目的			テーマに基づき作 て発表を行う。	- ■成し <i>た</i>	ニ論文を、わか	りやすい形でパワ	ーポイントに	にまとめ、学会			
到達目標			Jやすい発表資料 できることを目標			ンテーションを行	えること、	また根拠を持っ			
テキスト・ 参考図書等	特に指導	特に指定はしない									
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準					
	試験		0								
評価方法・											
評価基準	小テスト		0	論文の発表、内容等から総合的に評価する。							
	提出物		50								
	その他	1 774 V 2	50	» +				1. V (2) 0.1 1.			
履修上の 留意事項			も表なとの機会か 旨して取り組むこ		ノレセンテー	ション方法を工夫	し、聞き手7	か興味をもつよ			
	□		履修主題			履修内	內容				
履修内容	1	発表準	準備		論文に基づきパワーポイントを作成し、発表準備を行う						
	2	発表準	基備		論文に基づきパワーポイントを作成し、発表準備を行う						
	3	発表準	基備		論文に基づきパワーポイントを作成し、発表準備を行う						
	4	発表準	基備		論文に基づき	論文に基づきパワーポイントを作成し、発表準備を行う					
	5	発表準	 基備		論文に基づきパワーポイントを作成し、発表準備を行う						
	6	発表準	 基備		論文に基づき	論文に基づきパワーポイントを作成し、発表準備を行う					
	7	発表準	 基備		論文に基づき	パワーポイントを	作成し、発	表準備を行う			
	8	卒業研			発表						
	9	卒業研			発表						
	10	卒業研	开究発表		発表						
	11		 开究発表		発表						
	12				発表						
	13				発表						
	14		开究発表		発表						
	15	卒業研	开究発表		発表						

授業科目	理学療法課題研究ⅡB	担当教員	有本邦洋		道外医療施設にて理学療法士と
JXX:TI LI		実務 経験	有:■	無:□	して6年勤務
対象年次・学期	4年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

								1		
授業科目	情報科	学ⅢB			担当教員	竹中 謙将				
対象年次・学期	4 年・道	通年		必值	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間		
授業目的	ンがで	きる。	−を遵守し、コン D傾向をつかみ、			ワークを活用した	学習や、プロ	レゼンテーショ		
到達目標	国家試験	験問題の	D演習では正答率	を前期	引は 70%、後期	引は 90%を目標と ⁻	する。			
テキスト・ 参考図書等			専門基礎分野基礎 試験共通問題 頻		ワード 1800					
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		0							
評価方法・	評価基準小テスト0提出 定す					:化し、総合計を1	00 占協質!	学則に則い証		
評価基準						(化し、心口計で1	00 点揆昇し	、子別に別り計		
提出物 100										
	その他	70 - 24 -	0							
履修上の 留意事項		提出期限を厳守すること。 提出期限を超過する場合は、事前に連絡をすること。								
			履修主題			履修内	內容			
履修主題・ 履修内容	1	プレ4 の活月	ヹンテーションソ 月法	フト	認し、卒業研 る。	nt でのプレゼンラ F究の発表(理学療	法課題研究	II) につなげ		
	2	プレ も の活月	ヹンテーションソ 月法	フト	認し、卒業研 る。	nt でのプレゼンラ F究の発表(理学療	法課題研究	II) につなげ		
	3	国家認	式験対策		「資格試験シ 施する。	資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実 する。				
	4	国家認	式験対策		施する。	「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実 極する。				
	5	国家認	式験対策		資格試験シ 施する。	「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実 布する。				
	6	国家記	式験対策		施する。	·ステム」を活用し				
	7	国家認	式験対策		施する。	⁄ステム」を活用し				
	8	国家認	式験対策		「資格試験シ 施する。	⁄ステム」を活用し	て国家試験	の問題演習を実		
	9	国家記	式験対策		「資格試験シ 施する。	⁄ステム」を活用し	て国家試験	の問題演習を実		
	10	国家認	式験対策		施する。	⁄ステム」を活用し				
	11	国家詞	式験対策		施する。	⁄ステム」を活用し				
	12	国家詞	式験対策		施する。	⁄ステム」を活用し				
	13	国家記	式験対策		施する。	⁄ステム」を活用し				
	14	国家記	式験対策		施する。	⁄ステム」を活用し 				
	15	国家認	式験対策		「資格試験シ 施する。	⁄ステム」を活用し	て国家試験	の問題演習を実		

授業科目	情報科学ⅢB	担当教員	山内真帆		道内の病院にて理学療法士とし
汉 耒付日	旧取作子 III D	実務 経験	有:■	無:□	て8年以上勤務
対象年次・学期	4年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	理学療法	法管理等	Ž A	扫	旦当教員	福嶋 篤				
対象年次・学期	4 年・減	通年		必修	・選択区分	必修	単位数			
授業形態				拉	受業回数	15 回	時間数	30 時間		
授業目的	管理の	理解と現	里学療法士の職場	運営に [・]	ついて学ぶ。					
到達目標	管理、	管理的清	舌動について理解	し、理 <mark>:</mark>	学療法業務に	おける管理につい	て説明できる	3.		
テキスト・ 参考図書等	参考図	書≪15	レクチャーシリー	-ズ 理	学療法テキス	ト≫理学療法管理	学(中山書原	与)		
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		100							
評価方法・ 評価基準	レポー		0	 #□=-		·				
可興季年	サラス 提出物	<u> </u>								
	その他									
履修上の 留意事項										
履修主題・	回		履修主題			履修内	內容			
履修内容	1	管理0	D意義と目的		オリエンテー	-ション、管理の意	義と目的に	ついて学習する		
	2	組織管	管理と職業倫理		組織構成と医	療関連倫理につい	て学ぶ。			
	3		療法の法的根拠		各種法的根拠について学ぶ。					
	4	業務領ム医療	管理・職場管理と [・] §	チー	理学療法士の業務・職場管理と関連職種とのチーム医療に ついて学習する。					
	5	理学派 と記録	療法管理(指示・)	治療	理学療法における指示の意味と診療記録について学ぶ。					
	6	情報管	管理(1)		リスクマネージメントと個人情報保護法について学ぶ。					
	7	情報管	管理(2)		EBM の原則、目的、手法について学ぶ。					
	8	医療幸	服酬と介護報酬		医療報酬と介護報酬について学習する。					
	9	管理にション	こおけるコミュニ [,] / (1)	ケー	行動変容アフ る。	プローチに関する概	· 【念、実践例	について学習す		
	10	管理にション	こおけるコミュニ <i>・</i> ノ (2)	ケー	対象者への関ングについて	引わり方のヒントと 「学習する。	:してコーチ	ングとティーチ		
	11		こおけるコミュニ]滑な関係性構築に	役立つヘル	スコミュニケー		
	12	管理にション	こおけるコミュニ		表現の品質管 ニング用の配	理として校正作業 日布物の在り方なと	だについて学	٠٤٠٠。		
	13	医療罗	安全管理		医療管理と医む)	療安全について学	生ぶ。(ヒュー	-マンエラー含		
	14	臨床第	巻務と自己研鑽		社会人・専門	引職としての自己研 ,ダーの作成など)	F 鑽について	学習します。		
	15	ハラス	スメント		種々のハラス	メメントやその対処	l 法について	学びます。		

授業科目	 理学療法管理学 A	担当教員	福嶋篤		理学療法士として市内病院、訪問
1文未行日	在于原从自柱于 A	実務 経験	有:■	無:□	看護ステーションに勤務。
対象年次・学期	4年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

拉光打口	THA	+ // TEL 2	<u> </u>			石山				
授業科目	理学療法	去官理:	7. B		担当教員 	福嶋 篤				
対象年次・学期	4 年・追			必值	修・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間		
授業目的	管理のヨ	理解と現	里学療法士の職場	運営に	こついて学ぶ。					
到達目標	管理、	管理的流	舌動について理解	し、理	皇学療法業務に	おける管理につい	て説明できる	3.		
テキスト・ 参考図書等	参考図	書≪15	レクチャーシリー	-ズ 理	学療法テキス	ト≫理学療法管理	学(中山書原	与)		
	評価に	評価方法 評価割合(%) 評価基準								
	試験		100							
評価方法・	レポー		0							
評価基準	小テス	<u> </u>		定期詞	試験により評価	する。				
	提出物		0							
履修上の 留意事項	理学療法		────────────────────────────────────							
履修主題・			履修主題			覆修P	内容			
履修内容	1	管理0	D意義と目的		オリエンテ- る。	-ション・管理の意	意義と目的に	ついて学習す		
	2	組織管	管理と職業倫理		組織構成と医	を 寮関連倫理につい	ヽて学ぶ。			
	3	理学療	療法の法的根拠		各種法的根拠	法的根拠について学ぶ。				
	4	ム医療			理学療法士の業務・職場管理と関連職種とのチーム医療に ついて学習する。					
	5	理学療	療法管理(指示・) ^最)	治療	理学療法における指示の意味と診療記録について学ぶ。					
	6	情報管	管理(1)		理学療法における指示の意味と診療記録について学ぶ。					
	7	情報管	管理(2)		EBM の原則、目的、手法について学ぶ。					
	8		日子 日本			↑護報酬について 学				
	9	管理にション	こおけるコミュニ [,] , (1)	ケー	行動変容アフ る。	プローチに関する概	既念、実践例	について学習す		
	10	管理にション	こおけるコミュニ [,] / (2)			引わり方のヒントと 「学習する。	こしてコーチ	ングとティーチ		
	11		こおけるコミュニ· ∕ (3)	ケー	関係者との円 ションについ	滑な関係性構築に な関係性構築に	に役立つヘル	スコミュニケー		
	12	ション	こおけるコミュニ· / (4)	ケー	ニング用の酢	団理として校正作業 日布物の在り方なと	ごについて学	~Š*°°		
	13	医療罗	2全管理		医療管理と図 む)	養安全について 学	学ぶ。(ヒュ-	-マンエラー含 		
	14		美務と自己研鑽		社会人・専門 (キャリアラ	引職としての自己研 がダーの作成など)				
	15	ハラス	スメント		種々のハラス	スメントやその対処	処法について	学びます。		

授業科目	理学療法管理学 B	担当教員	福嶋篤		理学療法士として市内病院、訪問
1文未行日	在于原从自柱于 D	実務 経験	有:■	無:□	看護ステーションに勤務。
対象年次・学期	4年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	理学療剂	法特論,	4		担当教員	元木 純					
対象年次・学期	4 年・近	通年		必作	多・選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	23 回	時間数	45 時間			
授業目的	理学療剂	法の臨尿	末現場で用いられ	ている	る治療法や最近	のトピックス	などを学ぶ。				
到達目標	理学療剂	法の臨尿	末現場で用いられ	ている	る治療法を理解	できる。					
テキスト・ 参考図書等	配布資料	配布資料									
	評価に	方法	評価割合(%)			評価	基準				
	試験		0								
評価方法・ 評価基準	レポー		0	10 1 1	, -						
3 7 7 1				提出物	勿により評価す	· る。					
提出物 100 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7											
履修上の 留意事項		実技のしやすい服装で臨むこと。									
履修主題・	□		履修主題			R.					
履修内容	1	テーヒ			テーピングの)概念について	 C学習する。				
	2	テーと	ピング実習			節へのテーヒ 、て学習する。	ピング方法を学習	する。、肉離れ			
	3	テーと	ピング実習		足関節・膝関 の処置につい	 節へのテーヒ て学習する。	ピング方法を学習				
•	4	テーと	ピング実習			 節へのテーヒ て学習する。	ピング方法を学習	する。、肉離れ			
	5	テーと	ピング実習		足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れ の処置について学習する。						
	6	テーと	ピング実習		足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れ の処置について学習する。						
	7	レット	ドコードの概念		レッドコードの理論について学習する。						
	8	レット	ドコードの実習		レッドコードの方法について学習する。						
	9	レット	ドコードの実習		レッドコードの方法について学習する。						
	10	レット	ドコードの実習		レッドコードの方法について学習する。						
	11	PNF	総論・基本手技	-	PNFの理論と促通のパターンを理解し、基本的な手技を 実習する。						
	12	PNF	総論・基本手技		PNFの理論 実習する。	命と促通のパタ	マーンを理解し、	基本的な手技を			
	13	ボバー	-スの概念・基本	手技	ボバース概念	念と促通の基本	≤的な手技を実習	する。			
	14	ボバー	-スの概念・基本	手技	ボバース概念	念と促通の基本	x的な手技を実習	゚する。			
	15	ボバー	-スの概念・基本	手技	ボバース概念	念と促通の基本	×的な手技を実習	゚する。			
	16	ボバー	-スの概念・基本	:手技	ボバース概念	念と促通の基本	×的な手技を実習	する。			
	17	リン/	ペマッサージ		リンパの流れ	・ にを理解し、基	基本的な手技を実	習する。			
	18	リン/	パマッサージ		リンパの流れ	1を理解し、基	基本的な手技を実	習する。			
	19	リンパ	パマッサージ		リンパの流れ	1を理解し、基	基本的な手技を実	習する。			
	20	ウィン	〈ンズ・メンズへ	ルス	概要と基本手	≦技を学ぶ。					
	21	ウィン	く ンズ・メンズへ	ルス	概要と基本手	≒技を学ぶ。					

22	喀痰等の吸引	喀痰等の吸引方法を理解し、基本的な手技を実習する。
23	喀痰等の吸引	喀痰等の吸引方法を理解し、基本的な手技を実習する。

授業科目	理学療法特論 A	担当教員	吉田智子		
IXXII I	在]	実務 経験	有:■	無:□	
対象年次・学期	4年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	理学療法	法課題研	开究 I B(4 年)		担当教員	竹中 謙将					
対象年次・学期	4年・前	前期		必何	多・選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間			
授業目的	3 年次に成する。		として学習して	きたも	のを、具体的	に興味のあるテー	マに基づき、	各自論文を作			
到達目標		課題を解決するために研究計画を立て研究を実施できること、論文の形式や規定を理解して論文 を作成できることが目標となる。									
テキスト・ 参考図書等	特に指	特に指定はしない									
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準					
	試験		0								
評価方法・	レポー	<u> </u>	50								
評価基準	小テス	<u> </u>	0	論文の発表、内容等から総合的に評価する。							
	提出物		0								
	その他		50	J							
履修上の 留意事項	論文の	作成は四	卒業後も必要とな	こる。ま	ミた考え方を身	につけることも重	要である。				
履修主題・			履修主題			履修内	內容				
履修内容	1	論文作	作成		各自テーマに基づき論文作成						
	2	論文作	作成		各自テーマに基づき論文作成						
	3	論文作			各自テーマに基づき論文作成						
	4	論文作			各自テーマに基づき論文作成						
	5	論文作			各自テーマに基づき論文作成						
	6	論文作			各自テーマに基づき論文作成						
	7	論文作			各自テーマに基づき論文作成						
	8	論文作			各自テーマに	基づき論文作成					
	9	論文作			各自テーマに	基づき論文作成					
	10	論文作			各自テーマに	基づき論文作成					
	11	論文作	作成		各自テーマに	基づき論文作成					
	12	論文作	作成		各自テーマに	基づき論文作成					
	13	論文作	作成		各自テーマに	基づき論文作成					
	14	論文作	作成		各自テーマに	基づき論文作成					
	15	論文化	 作成		各自テーマに	基づき論文作成					

授業科目	理学療法課題研究 I B(4 年)	担当教員	有本邦洋		道外医療施設にて理学療法士と
汉朱竹口	至于凉瓜的这明儿10(4 千)	実務 経験	有:■	無:□	して6年勤務
対象年次・学期	4年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			

授業科目	地域理学療	養法学 A	1		担当教員	山内 真帆			
対象年次・学期	4年・前期			必值	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態				:	授業回数	15 回	時間数	30 時間	
授業目的	地域リハヒ	゛リテー	-ションについて学び	び、その「	中での理学療法を	士の役割を確認する	Ö.		
到達目標	到 ・地域リハビリテーションの意義について説明できる。 ・ の葉保険などの制度について説明できる。								
テキスト・参考図書	・介護保険などの制度について説明できる。 ・介護保険などの制度について説明できる。 ビジュアルレクチャー地域理学療法学第3版 参考図書:標準理学療法学専門分野 地域理学療法学、地域リハビリテーション論、地域リハビリテーション 原論								
評	評価方法	法	評価割合(%)			評価基準			
平評価方	試験	法	評価割合(%)			評価基準			
評価	試験 レポート	法	100						
評価方法・評	試験 レポート 小テスト	法	100 0 0	定期試験	能により評価する				
評価方法・評価基	試験 レポート	法	100	定期試験	食により評価する				
評価方法・評価基準 履修上の留意事項	試験 レポート 小テスト 提出物 その他 対象者の生	三活を考	100 0 0 0	すめるた	めには、地域リ	う。 ハビリテーション <i>0</i>)考え及び社会	制度の理解が必	
評価方法・評価基準履修上の留意事項履	試験 レポート 小テスト 提出物 その他 対象者の生	三活を考	100 0 0 0 0 0	すめるた	めには、地域リ	う。 ハビリテーション <i>0</i>		制度の理解が必	
評価方法・評価基準履修上の留意事項履修主題・履修内	試験 レポート 小テスト 提出物 その他 対象である。	三活を老本講義	100 0 0 0 0 0 がえて理学療法をする まで学んだことを臨り	すめるた	めには、地域リ	う。 ハビリテーション <i>の</i> ことを期待する。 履 修		制度の理解が必	
評価方法・評価基準履修上の留意事項履修主題・履修	試験 レポート 小テスト 提出物 その他 対象である。 回	近活を考本講義地域球	100 0 0 0 0 0 がえて理学療法をする まで学んだことを臨り 履修主題	すめるた	めには、地域リ きるようになる	か。 ハビリテーションの ことを期待する。 履修 の概念・定義		制度の理解が必	
評価方法・評価基準履修上の留意事項履修主題・履修内	試験 レポート 小テスト 提出 の他 対象である。 1	近活を考える。一本講義とは「地域では、地域では、地域では、地域では、地域では、地域では、地域では、地域では、	100 0 0 0 0 0 0 まえて理学療法をする をで学んだことを臨り 履修主題	すめるため	めには、地域リ きるようになる 地域理学療法 地域理学療法 他の訪問系在:	か。 ハビリテーションの ことを期待する。 履修 の概念・定義	内容		
評価方法・評価基準履修上の留意事項履修主題・履修内	試験 レポート 小テスト 提出物 その他 対象である。 回 1	近活を考える。一番では、一番では、一番では、一番では、一番では、一番では、一番では、一番では、	100 0 0 0 0 0 6 えて理学療法をする をで学んだことを臨尿 履修主題 理学療法学とは	すめるため	めには、地域リきるようになる 地域理学療法・地域理学療法・	ハビリテーションの ことを期待する。 履修 の概念・定義 の歴史 宅支援サービスおよ	内容		

6	地域理学療法の実践	介護3施設サービス、訪問リハビリテーションと理学療法
7	生活を支えるということの理解	「生活を支える」ということの理解、(連携の重要性や他職種理解を含む)
8	包括支援システムと理学療法	地域包括ケアシステムと理学療法士
9	高齢者の姿勢とアプローチ方法 について	高齢者の姿勢とアプローチ方法について
10	ダンボールによる簡易背シート 作成・あらためて地域理学療法 とは	ダンボールによる簡易背シート作成・あらためて地域理学療法 とは
11	事例検討①	地域社会で生活する事例について①
12	事例検討②	地域社会で生活する事例について②
13	各種制度と理学療法との関係に ついて①	各種制度に関する理学療法士の関わり
14	各種制度と理学療法との関係に ついて②	各種制度に関する理学療法士の実際業務について
15	地域理学療法のまとめ	各種制度やサービス内容などについて

授業科目	地域理学療法学 A	担当教員	山内真帆		道内の病院にて理学療法士とし
汉 耒付日	地域娃子原広子 A	実務 経験	有:■	無:□	て8年以上勤務
対象年次・学期	4年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	救急救行	命学 B			担当教員	三上	剛人		
対象年次・学期	4 年・後	 後期		必值	多・選択区分	必修		単位数	
授業形態					授業回数	8 🗉		時間数	15 時間
授業目的	臨床場でも併せて		リスク管理の一環 する。	として	、救急法につ	いて知識	・理解を	深めると共に	こ、基本的手技
到達目標	救急法(救急法について理解する。							
テキスト・ 参考図書等	配布資料	配布資料							
	評価方法 評価割合(%)						評価基準		
	試験		100						
評価方法・	レポー		0	0					
評価基準	小テス	<u> </u>	0	0 定期試験により評価する。					
	提出物		0						
	その他		0						
履修上の 留意事項			Z然必要になりま けてください。	す。い	いざという場面	で必要に	なる知識	と技術である	ることを念頭
履修主題・	回		履修主題				履修P	内容	
履修内容	1	救急法	去概論		医師法と一般	応急手当	台と基礎知	1識	
	2	救急法	去概論		ビデオ、スラ	イド使用	1		
	3	各パ-	- トについて		出血、止血法	: 、傷への	対応		
	4	各パ-	- トについて		三角巾の扱い	方			
	5	各パ-	-トについて		凍傷、火傷、	咬傷、気	道の確保	₹	
	6	各パ-	-トについて		頭のケガ、関	電、電撃	것 =		
	7	各パ-	-トについて		蘇生法(人工	呼吸)			
	8	各パ-	-トについて		蘇生法(心マ	゚゚ッサーシ	ジ)		_

授業科目	救急救命学 B	担当教員	菩提寺浩		消防署にて救急救命士として4
及水平自	32/6/32/40] 5	実務 経験	有:■	無:□	0年以上従事
対象年次・学期	4年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	理学療剂	法特論	3		担当教員	元木 純			
対象年次・学期	4年・追	通年		必何	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	23 🗉	時間数	45 時間	
授業目的	理学療剂	法の臨尿	末現場で用いられ	ている	る治療法や最近	のトピックス	などを学ぶ。		
到達目標	理学療剂	法の臨尿	末現場で用いられ	ている	る治療法を体験	する。			
テキスト・ 参考図書等	配布資料	配布資料							
	評価方法 評価割合(%)					評価	基準		
	試験 0								
評価方法・	レポート 0								
評価基準				提出物	勿により評価す	⁻ る。			
	提出物 100 その他 0								
履修上の 留意事項		しやすい	 水服装で臨むこと	. 0					
履修主題・						J			
履修内容	1	テーと			テーピングの概念について学習する。				
	2	テーと	<u></u> ピング実習		足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れ の処置について学習する。				
	3	テーと	<u></u> ピング実習		足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れ の処置について学習する。				
	4	テーと	 ピング実習		足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れ				
	5	テーと	プング実習		の処置について学習する。 足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れ の処置について学習する。				
	6	テーヒ	ピング実習		足関節・膝関		ピング方法を学習	する。、肉離れ	
	7	レット	ドコードの概念		レッドコート	での理論につい	ハて学習する。		
	8	レット	・コードの実習		レッドコート	での方法につい	ハて学習する。		
	9	レット	・コードの実習		レッドコート	での方法につい	ハて学習する。		
	10	レット	ドコードの実習		レッドコート	での方法につい	ハて学習する。		
	11	PNF	総論・基本手技		実習する。		ターンを理解し、		
	12	PNF	総論・基本手技	_ _	PNFの理論 実習する。	論と促通のパク	ターンを理解し、	基本的な手技を	
	13	ボバー	-スの概念・基本	手技	ボバース概念	念と促通の基本	本的な手技を実習	する。	
	14	ボバー	-スの概念・基本	手技	ボバース概念	念と促通の基本	本的な手技を実習	する。	
	15	ボバー	-スの概念・基本	手技	ボバース概念	念と促通の基本	本的な手技を実習	する。	
	16	ボバー	-スの概念・基本	手技	ボバース概念	念と促通の基本	本的な手技を実習	する。	
	17	リンパ	パマッサージ		リンパの流れ	1を理解し、基	基本的な手技を実	習する。	
	18	リンパ	パマッサージ		リンパの流れ	1を理解し、基	基本的な手技を実	習する。	
	19	リン/	ペマッサージ		リンパの流オ	1を理解し、基	基本的な手技を実	習する。	
	20	ウィン	〈ンズ・メンズへ	ルス	概要と基本手	≦技を学ぶ。			
	21	ウィン	〈ンズ・メンズへ	ルス	概要と基本手	≦技を学ぶ。			

22	喀痰等の吸引	喀痰等の吸引方法を理解し、基本的な手技を実習する。
23	喀痰等の吸引	喀痰等の吸引方法を理解し、基本的な手技を実習する。

授業科目	理学療法特論 B	担当教員	吉田智子			
1又未行口	生于原本行品 D	実務 経験	有:■	無:□		
対象年次・学期	4年・通年	担当 教員				
授業形態		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				

授業科目	救急救行	命学 A			担当教員	三上 岡	別人		
対象年次・学期	4 年・後			必何	多・選択区分	必修		単位数	
授業形態					授業回数	8 回		時間数	15 時間
授業目的	臨床場でも併せて		リスク管理の一環 する。	として	て、救急法につ	いて知識	・理解を	深めると共に	こ、基本的手技
到達目標	救急法(救急法について理解する。							
テキスト・ 参考図書等	配布資料	配布資料							
	評価方法 評価割合(%)					Ē	評価基準		
	試験		100						
評価方法・	レポー		0						
評価基準	小テス	<u> </u>	0	定期試験により評価する。					
	提出物		0						
	その他		0						
履修上の 留意事項			Z然必要になりま けてください。	す。し	いざという場面	で必要に	なる知識	と技術である	ることを念頭
履修主題・	回		履修主題				履修P	内容	
履修内容	1	救急法	去概論		医師法と一般	沈急手当	と基礎知	1識	
	2	救急法	去概論		ビデオ、スラ	イド使用			
	3	各パ-	- トについて		出血、止血法	、傷への	対応		
	4	各パ-	- トについて		三角巾の扱い	方			
	5	各パ-	-トについて		凍傷、火傷、	咬傷、気	道の確保	₹	
	6	各パ-	-トについて		頭のケガ、関	電、電撃	Ĭ		
	7	各パ-	-トについて		蘇生法(人工	呼吸)			
	8	各パ-	-トについて		蘇生法(心マ	゚゚゚゚゚゚゚゚ゕサージ	;)		_

授業科目	救急救命学 A	担当教員	菩提寺浩		消防署にて救急救命士として4
		実務 経験	有:■	無:□	0年以上従事
対象年次・学期	4年・後期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	地域理学療	·····································	3		担当教員	山内 真帆						
対象年次・学期	4年・前期			必值	多・選択区分	必修	単位数					
授業形態				:	授業回数	15 回	時間数	30 時間				
授業目的	地域リハヒ	゛リテー	-ションについて学び	び、その「	中での理学療法を	士の役割を確認する	Ö.					
到達目標	到 ・地域リハビリテーションの意義について説明できる。 ・ の葉保険などの制度について説明できる。											
テキスト・参考図書等	・介護保険などの制度について説明できる。 ビジュアルレクチャー地域理学療法学第3版 参考図書:標準理学療法学専門分野 地域理学療法学、地域リハビリテーション論、地域リハビリテーション 原論											
=====================================						書						
評	評価方法	 法	評価割合(%)			評価基準						
評価方	評価方法 試験	法	評価割合(%)			評価基準						
評価	試験 レポート	法	100									
評価方法・評	試験 レポート 小テスト	法	100 0 0	定期試験	(により評価する							
評価方法・評価基	試験 レポート	法	100	定期試験	食により評価する							
評価方法・評価基準履修上の留意事項	試験 レポート 小テスト 提出物 その他 対象者の生	三活を考	100 0 0 0	すめるた	めには、地域リ	う。 ハビリテーション <i>の</i>)考え及び社会	制度の理解が必				
評価方法・評価基準履修上の留意事項履	試験 レポート 小テスト 提出物 その他 対象者の生	三活を考	100 0 0 0 0 0	すめるた	めには、地域リ	う。 ハビリテーション <i>の</i>		制度の理解が必				
評価方法・評価基準履修上の留意事項履修主題・履修内	試験 レポート 小テスト 提出物 その他 対象である。	三活を老本講義	100 0 0 0 0 0 がえて理学療法をする まで学んだことを臨り	すめるた	めには、地域リ	う。 ハビリテーションの ことを期待する。 履修		制度の理解が必				
評価方法・評価基準履修上の留意事項履修主題・履修	試験 レポート 小テスト 提出物 その他 対象である。 回	を表本講弟 地域球	100 0 0 0 0 0 がえて理学療法をする まで学んだことを臨り 履修主題	すめるた	めには、地域リ きるようになる	かだリテーションの ことを期待する。 履修 の概念・定義		制度の理解が必				
評価方法・評価基準履修上の留意事項履修主題・履修内	試験 レポート 小テスト 提出 の他 対象である。 1	地域理	100 0 0 0 0 0 6 えて理学療法をする をで学んだことを臨り 履修主題	すめるため	めには、地域リ きるようになる 地域理学療法 地域理学療法 他の訪問系在:	かだリテーションの ことを期待する。 履修 の概念・定義	内容					
評価方法・評価基準履修上の留意事項履修主題・履修内	試験 レポート 小テスト 提出物 その他 対象である。 回 1	を表示 表示 表示 本 構	100 0 0 0 0 0 6 えて理学療法をする をで学んだことを臨り 履修主題 理学療法学とは	すめるため	めには、地域リきるようになる 地域理学療法・地域理学療法・	ハビリテーションの ことを期待する。 履修 の概念・定義 の歴史 宅支援サービスおよ	内容					

6	地域理学療法の実践	介護3施設サービス、訪問リハビリテーションと理学療法
7	生活を支えるということの理解	「生活を支える」ということの理解、(連携の重要性や他職種理解を含む)
8	包括支援システムと理学療法	地域包括ケアシステムと理学療法士
9	高齢者の姿勢とアプローチ方法 について	高齢者の姿勢とアプローチ方法について
10	ダンボールによる簡易背シート 作成・あらためて地域理学療法 とは	ダンボールによる簡易背シート作成・あらためて地域理学療法 とは
11	事例検討①	地域社会で生活する事例について①
12	事例検討②	地域社会で生活する事例について②
13	各種制度と理学療法との関係に ついて①	各種制度に関する理学療法士の関わり
14	各種制度と理学療法との関係に ついて②	各種制度に関する理学療法士の実際業務について
15	地域理学療法のまとめ	各種制度やサービス内容などについて

授業科目	地域理学療法学 B	担当教員	山内真帆		道内の病院にて理学療法士とし
及水平百	TOWN I MAN I	実務 経験	有:■	無:□	て8年以上勤務
対象年次・学期	4年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	健康増進	科学 [3	} .	坦当教員	武田	祐貴				
対象年次・学期 	4年・通	年		必修	・選択区分	必修		単位数			
授業形態				打	受業回数	8 回		時間数	15 時間		
授業目的	健康増進学的知見		要な運動・身体活 ブき学ぶ。	動を含	む様々な生活	習慣が	健康にどの	ような影響を	を及ぼすかを科		
到達目標	適切な運	動・労	栄養・休養を日常	生活に	効果的または	安全に	取り入れる	方法について	て理解する。		
テキスト・ 参考図書等	予防理学療法学要論										
	評価方	法	評価割合(%)		評価基準						
	試験 100										
評価方法・	レポート 0										
評価基準				定期試	験により評価	する。					
	提出物	提出物 0									
	その他	他 0									
履修上の 留意事項			申は社会の要請で 要な運動や栄養学						く必要がある。		
履修主題・			履修主題	履修内容							
履修内容		予防! 説	リハビリテーショ	ン概	概						
		予防し 理解	リハビリテーショ	ンの							
		予防し 実際	リハビリテーショ	ンの							
	4	予防と	:は								
	5	認知症	 定予防								
	6	精神經	実患の予防								
	'	リテー	ヹからみた予防リ -ション①								
			ヹからみた予防リ -ション②	ハビ							

授業科目	 健康増進科学 B	担当教員	横野裕行		道内・外の病院で理学療法士とし
汉朱竹百		実務 経験	有:■	無:□	て8年勤務
対象年次・学期	4年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	徒手関係	節治療管	Ž B		担当教員	橋田 浩						
対象年次・学期	4年・前	前期		必化	多・選択区分	必修	単位数					
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間				
授業目的	動機能について	障害が(て学習で	可によるか系統的 する。	に説り	月できるよう、	び、骨運動と関節 モビライゼーショ	ンの基本的記	平価・治療手技				
到達目標	2. 骨選 3. 運動 きる。	運動(生 助機能障	理的運動)と関語 害が、関節・筋	節運動 あるい	(副運動) の間は神経の滑走隊	去)の意義についっ 関係を理解し、評価 章害に基づくもので ーションの基本的記	西・治療技術 か、問題点を	に適用できる。 ·系統的に説明で				
テキスト・ 参考図書等	参考図	整形徒手理学療法 参考図書:上肢のマニュアルセラピー、脊柱・骨盤のマニュアルセラピー 改訂第2版、脊椎の分節的安定性のための運動療法 第2版										
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準						
	試験		100									
評価方法・	レポー	<u> </u>	0									
評価基準					試験により評価	iする。						
	提出物											
	その他		0									
履修上の 留意事項	演習日(には演習	gができる服装で	参加す	トること。							
履修主題・			履修主題		履修内容							
履修内容	1	徒手療	§法の意義		理学療法における徒手療法の意義							
	2	歴史的	的背景		徒手療法の歴史的背景と諸家の治療概念							
	3	骨運動	かと副運動		骨運動と関節運動(副運動)および法則							
	4	用語の	つ定義・解釈		徒手療法における専門用語の定義と解釈							
	5	関節-	゠゙゙ビライゼーショ	ン	関節モビライゼーションの治療原理							
	6	効果、	適用・禁忌		関節モビライゼーションの効果と適用・禁忌							
	7	上肢関	関節手技		上肢関節に対する基本的モビライゼーション手技の実習							
	8	下肢	関節手技		下肢関節に対	対する基本的モビラ	テイゼーショ	ン手技の実習				
	9	脊柱の	D運動学		頚椎・胸椎・	腰椎の関節運動学	<u>4</u>					
	10	仙腸関	関節の動きと障害	1	仙腸関節の形態、動きおよび障害							
	11 ニューロダイナミックス 12 腰椎・体幹のスタビリテ			ス	末梢神経の滑走障害の評価と治療法							
				ティ	腰椎・体幹のスタビリティの理論的背景とエクササイズへ の応用							
	13	脊柱	・骨盤の触診		頚椎・胸椎・腰椎関節および骨盤について触診の実習							
	14	脊椎関	関節手技		頚椎・胸椎関節に対するモビライゼーション手技の実習							
	15	仙腸團	目節手技		仙腸関節の障	章害の評価と基本的	沿療手技					

位 米 切口	徒手関節治療学 B	担当教員	橋田浩		道外の病院にて理学療法士とし
授業科目	化于舆即///综子 D	実務 経験	有:■	無:□	て 10 年以上勤務
対象年次・学期	4年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	理学療法演習ⅡA				担当教員	竹中 謙将	竹中 謙将				
対象年次・学期	4 年・追	 重年		必何	多・選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	45 回	時間数	90 時間			
授業目的	国家試験	餘全員名	合格を目指すため	、専門	門分野について学習する。						
到達目標	模擬試	験で学習	習の定着状況を確	認した	ながら、国家試	験合格を目指す	0				
テキスト・ 参考図書等			式験共通問題 頻 専門基礎分野基礎		-ワード 1800						
	評価ス	方法	評価割合(%)			評価基	準				
	試験		0								
評価方法・ 評価基準	レポー		0	(수 회의=	用師の中穴にし	リシケナマ					
	提出物	<u> </u>	100	演 省記	課題の内容によ	り評価する。					
	その他		0	_							
履修上の 留意事項	その他				リ、基礎ともな	る内容であるた	め、繰り返し [,]	何度も復習して			
			履修主題		履修内容						
履修内容	1	基礎理			過去問題を分析し、基礎項目を講義する。						
	2	基礎理	里学療法		過去問題を分	分析し、基礎項目	を講義する。				
	3	基礎理	里学療法		過去問題を分	分析し、基礎項目	を講義する。				
	4	基礎理	里学療法		過去問題を分	分析し、基礎項目	 を講義する。				
	5	評価法	ţ		過去問題を分	分析し、基礎項目	を講義する。				
	6	評価法	ŧ.		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。						
	7	評価法	Ę		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。						
	8	評価法	Ė		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。						
	9	運動療	·		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。						
	10	運動療	·		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。						
	11	物理療	·		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。						
	12	物理療	·		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。						
	13	義肢勢	 長具学		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。						
	14	義肢物	長具学		過去問題を分	分析し、基礎項目	を講義する。				
	15	ADL			過去問題を分	分析し、基礎項目	を講義する。				
	16	ADL			過去問題を分	分析し、基礎項目	を講義する。				
	17	各領域	或の評価・治療		過去問題を分	分析し、基礎項目	を講義する。				
18 各領			或の評価・治療		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。						
	19	各領域	或の評価・治療		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。						
	20	各領域	或の評価・治療		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。						
	21	各領域	或の評価・治療		過去問題を分	分析し、基礎項目	を講義する。				
	22	各領域	域の評価・治療		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。						
	23	各領域	或の評価・治療		過去問題を分	分析し、基礎項目	を講義する。				

24	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
25	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
26	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
27	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
28	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
29	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
30	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
31	地域理学療法学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
32	地域理学療法学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
33	その他	模試など
34	その他	模試など
35	その他	模試など
36	その他	模試など
37	その他	模試など
38	その他	模試など
39	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
40	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
41	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
42	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
43	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
44	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
45	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。

授業科目		担当教員	山内真帆		道内の病院で理学療法士として
1又未14日	在于凉心灰日 II A	実務 経験	有:■	無:□	8年以上勤務
対象年次・学期	4年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	徒手関節治療学 A				担当教員	橋田 浩						
対象年次・学期	4年・前	前期		必化	多・選択区分	必修	単位数					
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間				
授業目的	動機能について	障害が何 て学習で	可によるか系統的 する。	に説り	月できるよう、	び、骨運動と関節 モビライゼーショ	ンの基本的記	平価・治療手技				
到達目標	2. 骨選 3. 運動 きる。	運動(生 助機能障	理的運動)と関語 害が、関節・筋	節運動 あるい	(副運動) の間 は神経の滑走隊	去)の意義についつ 関係を理解し、評値 管害に基づくもので −ションの基本的記	西・治療技術 か、問題点を	に適用できる。 ·系統的に説明で				
テキスト・ 参考図書等	参考図	整形徒手理学療法 参考図書:上肢のマニュアルセラピー、脊柱・骨盤のマニュアルセラピー 改訂第2版、脊椎の 分節的安定性のための運動療法 第2版										
	評価方法 評価割合(%)					評価基準						
	試験		100									
評価方法・	レポー	<u> </u>	0									
評価基準					試験により評価	iする。						
	提出物 0											
	その他		0									
履修上の 留意事項	演習日(には演習	習ができる服装で	参加。	けること。							
履修主題・			履修主題		履修内容							
履修内容	1	徒手療	§法の意義		理学療法における徒手療法の意義							
	2	歴史的	的背景		徒手療法の歴史的背景と諸家の治療概念							
	3	骨運動	かと副運動		骨運動と関節運動(副運動)および法則							
	4	用語の	つ定義・解釈		徒手療法における専門用語の定義と解釈							
	5	関節・	゠゙゙ビライゼーショ	ン	関節モビライゼーションの治療原理							
	6	効果、	適用・禁忌		関節モビライゼーションの効果と適用・禁忌							
	7	上肢関	関節手技		上肢関節に対する基本的モビライゼーション手技の実習							
	8	下肢関	関節手技		下肢関節に対する基本的モビライゼーション手技の実習							
	9	脊柱0	D運動学		頚椎・胸椎・	腰椎の関節運動学	<u>4</u>					
	10	仙腸関	関節の動きと障害	1	仙腸関節の形態、動きおよび障害							
	11 ニューロダイナミックス 12 腰椎・体幹のスタビリティー			ス	末梢神経の滑走障害の評価と治療法							
				ティ	腰椎・体幹のスタビリティの理論的背景とエクササイズへ の応用							
	13	3 脊柱・骨盤の触診			頚椎・胸椎・腰椎関節および骨盤について触診の実習							
	14	脊椎関	関節手技		頚椎・胸椎関節に対するモビライゼーション手技の実習							
	15	仙腸関	目節手技		仙腸関節の障	草害の評価と基本的	沿療手技					

授業科目	徒手関節治療学 A	担当教員	橋田浩		道外の病院にて理学療法士とし
1文朱竹口	使于因即/D源于 A	実務 経験	有:■	無:□	て 10 年以上勤務
対象年次・学期	4年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	臨床実習ⅢA				担当教員	竹中 謙将	竹中 謙将					
対象年次・学期	4 年・前			必作	多・選択区分	必修	単位数					
授業形態					授業回数	180 🗉	時間数	360 時間				
授業目的	もに、5 理学療法 録・再 ション	理学療法 去の進& 評価を研 チームの	法の実施に際して め方を理解する。 確実に行うことに ○一員としての役	も反応 次の点 より、 割を担	ぶや変化を適確 京を最重要視す 患者の反応や ⊒い、それに即	別の状況や変化に応じた評価手技の応用性を養うとと 化を適確に把握し、ゴールやプログラムの変更を含む 重要視する。1)理学療法の実施にあたり、観察や記 の反応や変化を具体的に把握する。、2)リハビリテー それに即した行動を実践する。						
到達目標	b) 収集 c) 症例 d) ゴー e) 理学	a) 症例に即した情報収集と検査・測定を迅速に実施できる。 b) 収集したデータを統合・解釈し、問題点に対するゴールを立案する。 c) 症例の社会的背景を踏まえ総合的な視点から考察する。 d) ゴールに対する理学療法プログラムを作成し実施する。 e) 理学療法の基本的な原理を把握し、治療技術を実際に行い再評価を行うことで対象者の変化を把握し、その理由を考察する。										
テキスト・ 参考図書等	臨床実習教育の手引き 第6版											
	評価方法 評価割合(%)					評価基準						
	試験											
評価方法・	レポート 0											
評価基準	小テスト			せ、総合的に評価する。								
	提出物 25											
	その他		75									
履修上の 留意事項	学生と にして ⁻			す。惟	事いが残らない	よう対象者第一に	考え行動し、	充実した実習				
	□		履修主題		履修内容							
履修主題· 履修内容	1		L-10 回】 《習前評価		実習前筆記・実技試験にて、直接対象者に接するに当た り、総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることを 確認する。							
	2		第 11-165 回】 臨床実習		各実習施設に赴き実習指導者の指示のもと、評価から治療までの一連の流れを臨床参加型の実習を通して学ぶ。1) 理学療法の実施にあたり、観察や記録・再評価を確実にうことにより、対象者の反応や変化を具体的に把握する。、2) リハビリテーションチームの一員としての役割担い、それに即した行動を実践して運営・管理についている。。。							
	3		166-180 回】 冥習後評価		実習後筆記・実技試験にて、実習の成果として、総合的知識及び基本的技能・態度がどれくらい身についたかを確認する。							

授業科目	臨床実習III A	担当教員	有本	邦洋	道外医療施設にて理学療法士と
1又未11日	□□□小天日□□ハ	実務 経験	有:▮	■ 無:	して6年勤務
対象年次・学期	4年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	臨床実	習IIIB	III B		担当教員	竹中 謙将	竹中 謙将			
対象年次・学期	4 年・前			必作	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	180 回	時間数	360 時間		
授業目的	もに、 ³ 理学療 録・再 ション	理学療法 去の進& 評価を研 チームの	去の実施に際して か方を理解する。 確実に行うことに ロー員としての役	も反応 次の点 より、 割を担	ぶや変化を適確 でを最重要視す 患者の反応や 引い、それに即	や変化に応じた評 に把握し、ゴール る。1) 理学療法は 変化を具体的に把 した行動を実践す	やプログラ <i>』</i> の実施にあた 握する。、2)	ムの変更を含む り、観察や記		
到達目標	a) 症例に即した情報収集と検査・測定を迅速に実施できる。 b) 収集したデータを統合・解釈し、問題点に対するゴールを立案する。 c) 症例の社会的背景を踏まえ総合的な視点から考察する。 d) ゴールに対する理学療法プログラムを作成し実施する。 e) 理学療法の基本的な原理を把握し、治療技術を実際に行い再評価を行うことで対象者の変化を把握し、その理由を考察する。									
テキスト・ 参考図書等	臨床実習教育の手引き 第6版 臨床実習指導者の評定、実習報告会の発表内容、提出物等を併せ、総合的に評価する。									
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		0							
評価方法・	レポー	<u> </u>	0	施 1	12羽歩道老の訶	 習指導者の評定、実習報告会の発表内容、提出物等を併				
評価基準	小テス		U		総合的に評価する。					
	提出物		25							
	その他		75							
履修上の 留意事項	学生と にして ⁻			す。惟	∮いが残らない	よう対象者第一に	考え行動し、	充実した実習		
	回		履修主題			履修P	内容			
履修主題· 履修内容	1		L-10 回】 【智前評価		実習前筆記・実技試験にて、直接対象者に接するに当た り、総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることを 確認する。					
	2		1-165 回】 床実習		各実習施設に赴き実習指導者の指示のもと、評価から治療までの一連の流れを臨床参加型の実習を通して学ぶ。1) 理学療法の実施にあたり、観察や記録・再評価を確実に行うことにより、対象者の反応や変化を具体的に把握する。、2) リハビリテーションチームの一員としての役割を担い、それに即した行動を実践して運営・管理について学ぶ。					
	3		166-180 回】 ミ習後評価		実習後筆記・実技試験にて、実習の成果として、総合的知識及び基本的技能・態度がどれくらい身についたかを確認する。					

授業科目	臨床実習ⅢB	担当教員	有本	邦洋		道外医療施設にて理学療法士と
1又未11日	·····································	実務 経験	有:▮	無	: 🗆	して6年勤務
対象年次・学期	4年・前期	担当 教員				
授業形態		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				

授業科目	理学療法	理学療法課題研究 I A(3 年)			坦当教員	元木 純					
対象年次・学期	4年・前	前期		必修	・選択区分	必修	単位数				
授業形態				拉	受業回数	15 回	時間数	30 時間			
授業目的	する。 ・卒業研	开究とし	して具体的に興味	このある こ	テーマを設定	ことを基に、実践し、研究計画を立	てて実施する				
到達目標	・先行 きる。	开究を基	基にリサーチクエ	スチョ	ンを明確にし	索を行うことがで て、目的・方法を てデータ収集がで	立案し研究	計画書を作成で			
テキスト・ 参考図書等	特に指定	特に指定はしない									
	評価力	5法	評価割合(%)			評価基準					
	試験		0								
評価方法・ 評価基準	提出					研究計画書)、取	り組み姿勢な	にどから総合的			
可圆坐牛	小テス 提出物	Γ	60	に評価	提出物(授業課題、研究計画書)、取り組み姿勢などから総合的 に評価する。						
	その他		40								
履修上の 留意事項	担当教員との報告・連絡・相談を密に行い、主体的に取り組んでください。										
履修主題・			履修主題			履修P	内容				
履修内容	1	オリコ 検索	エンテーション、	文献	卒業研究の流れについて。文献検索の方法の確認、実施。						
	2	文献抄	 少読		グループ演習	ブループ演習					
	3	研究記	十画書の作成1		先行研究を基にリサーチ・クエスチョン、目的を明確にして計画書の作成を行う						
	4		十画書の作成 2		先行研究を基にリサーチ・クエスチョン、目的を明確にして計画書の作成を行う						
	5	研究記	十画書の作成3		担当教員の指導・助言を交え計画書の作成を行う						
	6	研究記	十画書の作成4		担当教員の指導・助言を交え計画書の作成を行う						
	7	予備研	开究		研究計画書に基づき予備研究を行い、方法の修正・見直しをする						
	8	予備研			研究計画書に をする	基づき予備研究を	行い、方法	の修正・見直し			
	9	データ			計画書に基つ	ぎデータ収集を行	īὸ				
	10	データ	以集		計画書に基つ	ぎぎータ収集を行	īò				
	11	データ			計画書に基つ	ぎデータ収集を行	īὸ				
	12	データ			計画書に基つ	ぎデータ収集を行	īὸ				
	13	データ			計画書に基づきデータ収集を行う						
	14		マ収集・データ解		計画書に基づきデータ収集・データ解析を行う						
	15	データ	マ収集・データ解	析	計画書に基づきデータ収集・データ解析を行う						

授業科目	理学療法課題研究 I A(3 年)	担当教員	有本邦洋		道外医療施設にて理学療法士と
1又未行口	生于原心味应明九 「	実務 経験	有:■	無:□	して6年勤務
対象年次・学期	4 年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	理学療剂	法演習	ΙΒ		担当教員	竹中 謙将					
対象年次・学期	4年・近	 鱼年		必任	多・選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	45 回	時間数	90 時間			
授業目的	国家試験	験全員台	合格を目指すため	、共通	通分野について	学習する。					
到達目標	獲得で	きる。				解を深め、第1回 、国家試験合格を		より高い点数を			
テキスト・ 参考図書等	必修ポイント専門基礎分野基礎医学 PT・OT 国家試験共通問題 頻出キーワード 1800										
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準	É				
	試験		100	(1)	(1 同目占数)	× 25% + (2 🗉	———]目占数)× ⁻	75% = 168 /			
評価方法・	レポー		0	280 .	点以上が合格	, .		·			
計除 ナ 中 女 十 フ						196 点以上、C:1	68 点以上、1	.68 点未満は再			
	提出物		0			3/280 点以上が	合格				
履修上の 留意事項	国家試験	その他 0 国家試験に直接出題される分野であり、基礎ともなる内容であるため、繰り返し何度も復習して 印識を定着させること。									
			履修主題		履修内容						
履修内容	1	オリコ	 Lンテーション		国家試験までの流れについて説明する。						
	2	解剖学	<u></u>		過去問題を分	が析し、基礎項目	 を講義する。				
	3	解剖学	<u></u>		過去問題を分	が析し、基礎項目	 を講義する。				
	4	解剖学	<u></u>		過去問題を分	が析し、基礎項目	 を講義する。				
	5	解剖学	<u></u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。						
	6	解剖学	<u></u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。						
	7	解剖学	<u></u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。						
	8	解剖学	<u></u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。						
	9	解剖学	<u></u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。						
	10	解剖学	<u></u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。						
	11	生理学	<u></u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。						
	12	生理等	<u></u>		過去問題を分	が析し、基礎項目	を講義する。				
	13	生理学	<u></u>		過去問題を分	が析し、基礎項目	 を講義する。				
	14	生理学	<u></u>		過去問題を分	か析し、基礎項目	を講義する。				
	15	生理等	<u></u>		過去問題を分	が析し、基礎項目	を講義する。				
	16	生理等	<u></u>		過去問題を分	が析し、基礎項目	を講義する。				
	17	生理等	<u></u>		過去問題を分	が析し、基礎項目	を講義する。				
	18	運動学	<u></u>		過去問題を分	が析し、基礎項目	 を講義する。				
	19	運動学	<u></u>		過去問題を分	が析し、基礎項目	 を講義する。				
	20	運動学	<u></u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。						
	21	運動学	<u></u>		過去問題を分	が析し、基礎項目	を講義する。				
	22	運動的	<u></u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。						
	23	臨床图	E 学総論		過去問題を分	か析し、基礎項目	を講義する。				

24臨床医学総論過去問題を分析し、基礎項目を講義する。25内部障害学過去問題を分析し、基礎項目を講義する。26内部障害学過去問題を分析し、基礎項目を講義する。27内部障害学過去問題を分析し、基礎項目を講義する。28内部障害学過去問題を分析し、基礎項目を講義する。29骨関節障害過去問題を分析し、基礎項目を講義する。30骨関節障害過去問題を分析し、基礎項目を講義する。31骨関節障害過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
26 内部障害学 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。 27 内部障害学 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。 28 内部障害学 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。 29 骨関節障害 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。 30 骨関節障害 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
27 内部障害学 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。 28 内部障害学 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。 29 骨関節障害 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。 30 骨関節障害 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
28 内部障害学 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。 29 骨関節障害 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。 30 骨関節障害 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
29 骨関節障害 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。 30 骨関節障害 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
30 骨関節障害 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
31 骨関節障害 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
32 神経筋疾患 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
33 人間発達・発達障害 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
34 人間発達・発達障害 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
35 精神医学・心理学 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
36 精神医学・心理学 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
37 精神医学・心理学 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
38 精神医学・心理学 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
39 精神医学・心理学 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
40 リハビリテーション概論 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
41 その他 模試など	
42 その他 模試など	
43 その他 模試など	
44 その他 模試など	
45 その他 模試など	·

授業科目	 理学療法演習 B	担当教員	山内真帆		道内の病院で理学療法士として
1又未11日	在于凉心灰日 T D	実務 経験	有:■	無:□	8年以上勤務
対象年次・学期	4年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	理学療法	去課題研	开究 I B(3 年)		担当教員	元木 純					
対象年次・学期	4 年・前			必何	多・選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間			
授業目的	する。					こことを基に、実践 し、研究計画を立					
到達目標	・興味あるテーマに関する先行研究について文献検索を行うことができる。・先行研究を基にリサーチクエスチョンを明確にして、目的・方法を立案し研究計画書を作成できる。・予備研究を行い方法を見直してデータ収集ができる。										
テキスト・ 参考図書等	特に指別	特に指定はしない									
	評価フ	方法	評価割合(%)			評価基準					
	試験		0								
評価方法・ 評価基準	レポー		0	提出物	勿(授業課題、	研究計画書)、取	り組み姿勢な	などから総合的			
計圖基準	サラス 提出物	<u> </u>	60		五する。						
	その他		40								
履修上の 留意事項		担当教員との報告・連絡・相談を密に行い、主体的に取り組んでください。									
履修主題・			履修主題			履修	内容				
履修内容	1	オリコ 検索	ニンテーション、	文献	卒業研究の流	れについて。文献	献検索の方法	の確認、実施。			
	2	文献抄	少読		グループ演習						
	3		十画書の作成1		て計画書の作	先行研究を基にリサーチ・クエスチョン、目的を明確にして計画書の作成を行う					
	4	研究計	十画書の作成2		先行研究を基にリサーチ・クエスチョン、目的を明確にして計画書の作成を行う						
	5	研究計	十画書の作成3		担当教員の指導・助言を交え計画書の作成を行う						
	6	研究計	十画書の作成4		担当教員の指導・助言を交え計画書の作成を行う						
	7	予備研	开究		研究計画書に基づき予備研究を行い、方法の修正・見直し をする						
	8	予備研	170		研究計画書に基づき予備研究を行い、方法の修正・見直し をする						
	9	データ			計画書に基づ	計画書に基づきデータ収集を行う					
	10	データ			計画書に基っ	ゔきデータ収集を 彳					
	11	データ			計画書に基づ	ゔきデータ収集を 彳					
	12	データ			計画書に基づ	ゔきデータ収集を 彳					
	13	データ		-		がきデータ収集を行		/- >			
	14		マ収集・データ解		計画書に基づきデータ収集・データ解析を行う						
	15	データ	双集・データ解	析	計画書に基づきデータ収集・データ解析を行う						

授業科目	理学療法課題研究 I B(3 年)	担当教員	有本邦洋		道外医療施設にて理学療法士と
汉朱竹口	在于原本的应则几十日(3 平)	実務 経験	有:■	無:□	して6年勤務
対象年次・学期	4年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	理学療法	学療法課題研究 II A			担当教員	担当教員 竹中 謙将					
 対象年次・学期	4 年・前	 前期		必何	 多・選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	15 🗉	時間数	30 時間			
授業目的		自ら設定したテーマに基づき作成した論文を、わかりやすい形でパワーポイントにまとめ、学会 発表を想定して発表を行う。									
到達目標			りやすい発表資料できることを目標			ンテーションを行	えること、	また根拠を持っ			
テキスト・ 参考図書等	特に指定はしない										
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準					
	試験		0								
評価方法・	レポー		0								
評価基準	小テス	Ι-	0	論文の	文の発表、内容等から総合的に評価する。						
	提出物		50								
	その他	1 74 V 2	50 * = + 1° 0 + 4° 0 /	50 会があり、プレゼンテーション方法を工夫し、聞き手が興味をもつよ							
履修上の 留意事項			t表なとの機会が 旨して取り組むこ		ノレセンテー	ンヨン万法を工大	し、闻さ于7	か興味をもづよ			
			履修主題			履修内	內容				
履修内容	1	発表準	基備		論文に基づきパワーポイントを作成し、発表準備を行う						
	2	発表準	基備		論文に基づきパワーポイントを作成し、発表準備を行う						
	3	発表準	準備		論文に基づきパワーポイントを作成し、発表準備を行う						
	4	発表導	基備		論文に基づきパワーポイントを作成し、発表準備を行う						
	5	発表導	生備		 論文に基づきパワーポイントを作成し、発表準備を行う						
	6	発表準	 ^集 備		 論文に基づきパワーポイントを作成し、発表準備を行う						
	7	発表準	≛備		論文に基づきパワーポイントを作成し、発表準備を行う						
	8	卒業研	 T究発表		発表						
	9	卒業研	 T究発表		発表						
	10	卒業研	T究発表		発表						
	11		 T究発表		発表						
	12	卒業研	 T究発表		発表						
	13		 T究発表		発表						
	14		T究発表		発表						
	15	卒業研	T究発表		発表						

授業科目	理学療法課題研究ⅡA	担当教員	有本邦洋		道外医療施設にて理学療法士と
1又未17日	在于原心体应则九Ⅱ九	実務 経験	有:■	無:□	して6年勤務
対象年次・学期	4年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	情報科	学ⅢA			担当教員	竹中 謙将				
対象年次・学期	4 年・道			必值	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間		
授業目的	ンがで	きる。	−を遵守し、コン D傾向をつかみ、			ワークを活用した	学習や、プロ	レゼンテーショ		
到達目標	国家試験	験問題の	D演習では正答率	を前期	引は 70%、後期	引は 90%を目標と ⁻	する。			
テキスト・ 参考図書等	必修ポイント専門基礎分野基礎医学 PT・OT 国家試験共通問題 頻出キーワード 1800									
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		0							
評価方法・	レポー		0	坦山州	加の内容を占物	:化し、総合計を1	00 占協質」	学別に別れ転		
評価基準	小テス	<u> </u>	0	旋山*		,,,,,,,,,	∪∪ 从採昇し	、ナパッにパック計		
	提出物		100							
EW.L.	その他	70 +	0							
履修上の 留意事項	提出期限を厳守すること。 提出期限を超過する場合は、事前に連絡をすること。									
			履修主題			履修内	內容			
履修主題・ 履修内容	1	プレも の活用	ヹンテーションソ 月法	フト	Power Point でのプレゼンテーションの仕方について確認し、卒業研究の発表(理学療法課題研究Ⅱ)につなげる。 Power Point でのプレゼンテーションの仕方について確					
	2	プレセ の活用	ヹンテーションソ 月法	フト	認し、卒業研 る。	F究の発表(理学療	法課題研究) につなげ		
	3	国家認	式験対策		「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実施する。					
	4	国家詞	式験対策		「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実施する。					
	5	国家記	式験対策		「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実 施する。					
	6	国家記	式 験 対策		「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実 施する。					
	7	国家調	式験対策		施する。	⁄ステム」を活用し				
	8	国家詞	式験対策		「資格試験シ 施する。	⁄ステム」を活用し	て国家試験	の問題演習を実		
	9	国家認	式験対策		「資格試験シ 施する。	⁄ステム」を活用し	て国家試験	の問題演習を実		
	10	国家記	式験対策		施する。	⁄ステム」を活用し				
	11	国家記	式験対策 		施する。	⁄ステム」を活用し 				
	12	国家詞	式験対策		施する。	⁄ステム」を活用し				
	13	国家記	式験対策 		「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実 施する。					
	14	国家詞	式験対策		施する。	⁄ステム」を活用し				
	15	国家記	式験対策		「資格試験シ 施する。	⁄ステム」を活用し	て国家試験	の問題演習を実		

授業科目	情報科学ⅢA	担当教員	山内真帆		道内の病院にて理学療法士とし
及水平百	INTERFECTION	実務 経験	有:■	無:□	て8年以上勤務
対象年次・学期	4年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	理学療法	理学療法課題研究 I A(4 年)			担当教員	竹中 謙将	竹中 謙将			
 対象年次・学期	4 年・前	 前期		必化		必修	単位数			
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間		
授業目的		3年次に研究法として学習してきたものを、具体的に興味のあるテーマに基づき、各自論文を作成する。								
到達目標		課題を解決するために研究計画を立て研究を実施できること、論文の形式や規定を理解して論文 を作成できることが目標となる。								
テキスト・ 参考図書等	特に指導	特に指定はしない								
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		0							
評価方法・	レポー	 	50							
評価基準	小テス	 	0	論文の	文の発表、内容等から総合的に評価する。					
	提出物		0							
- 15 ·	その他		50							
履修上の 留意事項	論文の	作成は召	卒業後も必要とな	ょる。ま	た考え方を身	につけることも重	要である。			
履修主題・	□		履修主題			履修内	內容			
履修内容	1	論文作	作成		各自テーマに基づき論文作成					
	2	論文作	 F 成		各自テーマに基づき論文作成					
	3	論文作	作成		各自テーマに基づき論文作成					
	4	論文作	作成		各自テーマに基づき論文作成					
	5	論文作	作成		各自テーマに基づき論文作成					
	6	論文作	 作成		各自テーマに基づき論文作成					
	7	論文作	 作成		各自テーマに基づき論文作成					
	8	論文作	 f成		各自テーマに	基づき論文作成				
	9	論文作			各自テーマに					
	10	論文作			各自テーマに	基づき論文作成				
	11	論文作			各自テーマに	基づき論文作成				
	12	論文作			各自テーマに	基づき論文作成				
	13	論文化				基づき論文作成				
	14	論文作				基づき論文作成				
	15	論文作			各自テーマに	基づき論文作成				

授業科目	理学療法課題研究 I A(4 年)	担当教員	有本邦洋		道外医療施設にて理学療法士と
1又未17日	在于凉瓜酥应明九(八(十)	実務 経験	有:■	無:□	して6年勤務
対象年次・学期	4年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			

授業科目	理学療剂	法演習	ΙA		担当教員	竹中 謙将				
対象年次・学期	4年・近	 鱼年		必任	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	45 回	時間数	90 時間		
授業目的	国家試験	験全員名	合格を目指すため	、各分	}野について学	習する。				
到達目標	獲得で	きる。				解を深め、第1回 、国家試験合格を		より高い点数を		
テキスト・ 参考図書等	必修ポイント専門基礎分野基礎医学 PT・OT 国家試験共通問題 頻出キーワード 1800									
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準	<u>É</u>			
	試験		100	(<u>1</u>)	(1 回目占数)	× 25% + (2 🗆]目点数) × ⁻	75% = 168 /		
評価方法・	レポー		0	280 .	点以上が合格	, .		·		
評価基準	小テス	<u> </u>	0		24 点以上、B: を実施する。	196 点以上、C:1	68 点以上、1	.68 点未満は再		
	提出物		0			3 / 280 点以上が	合格			
履修上の 留意事項	国家試験	その他 0 国家試験に直接出題される分野であり、基礎ともなる内容であるため、繰り返し何度も復習し 知識を定着させること。						 何度も復習して		
履修主題・			履修主題		履修内容					
履修内容	1	オリコ	ニンテーション		国家試験まで	での流れについて	 説明する。			
	2	解剖学	<u> </u>		過去問題を分	か析し、基礎項目	を講義する。			
	3	解剖学	<u> </u>		過去問題を分	か析し、基礎項目	を講義する。			
	4	解剖学	<u> </u>		過去問題を分	か析し、基礎項目	 を講義する。			
	5	解剖学	<u> </u>		過去問題を分	か析し、基礎項目	を講義する。			
	6	解剖学	<u></u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	7	解剖学	<u></u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	8	解剖学	<u></u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	9	解剖学	<u></u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	10	解剖与	<u></u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	11	生理等	<u></u>		過去問題を分	が析し、基礎項目	を講義する。			
	12	生理学	<u></u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	13	生理学	<u></u>		過去問題を分	か析し、基礎項目	を講義する。			
	14	生理学	<u></u>		過去問題を分	か析し、基礎項目	を講義する。			
	15	生理学	<u></u>		過去問題を分	か析し、基礎項目	 を講義する。			
	16	生理等	<u></u>		過去問題を分	が析し、基礎項目	を講義する。			
	17	生理等	<u></u>		過去問題を分	が析し、基礎項目	を講義する。			
	18	運動学	<u></u>		過去問題を分	が析し、基礎項目				
	19	運動学	<u></u>		過去問題を分	が析し、基礎項目				
	20	運動学	<u></u>		過去問題を分	が析し、基礎項目				
	21	運動学	<u></u>		過去問題を分	が析し、基礎項目	を講義する。			
	22	運動的	<u></u>		過去問題を分	が析し、基礎項目	を講義する。			
	23	臨床图	E学総論		過去問題を分	か析し、基礎項目	を講義する。			

24臨床医学総論過去問題を分析し、基礎項目を講義する。25内部障害学過去問題を分析し、基礎項目を講義する。26内部障害学過去問題を分析し、基礎項目を講義する。27内部障害学過去問題を分析し、基礎項目を講義する。28内部障害学過去問題を分析し、基礎項目を講義する。29骨関節障害過去問題を分析し、基礎項目を講義する。30骨関節障害過去問題を分析し、基礎項目を講義する。31骨関節障害過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
26 内部障害学 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。 27 内部障害学 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。 28 内部障害学 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。 29 骨関節障害 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。 30 骨関節障害 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
27 内部障害学 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。 28 内部障害学 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。 29 骨関節障害 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。 30 骨関節障害 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
28 内部障害学 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。 29 骨関節障害 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。 30 骨関節障害 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
29 骨関節障害 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。 30 骨関節障害 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
30 骨関節障害 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
31 骨関節障害 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
32 神経筋疾患 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
33 人間発達・発達障害 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
34 人間発達・発達障害 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
35 精神医学・心理学 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
36 精神医学・心理学 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
37 精神医学・心理学 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
38 精神医学・心理学 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
39 精神医学・心理学 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
40 リハビリテーション概論 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。	
41 その他 模試など	
42 その他 模試など	
43 その他 模試など	
44 その他 模試など	
45 その他 模試など	·

授業科目	 理学療法演習 A	担当教員	山内真帆		道内の病院で理学療法士として
1文未行日	在于凉 <i>山</i> 庚日 I N	実務 経験	有:■	無:□	8年以上勤務
対象年次・学期	4年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	健康増進	科学力	A		担当教員	武田	祐貴			
対象年次・学期	4 年・通	年		必修	多・選択区分	必修		単位数		
授業形態					授業回数	8 💷		時間数	15 時間	
授業目的	健康増進に必要な運動・身体活動を含む様々な生活習慣が健康にどのような影響を及ぼすかを科学的知見に基づき学ぶ。									
到達目標	適切な運	適切な運動・栄養・休養を日常生活に効果的または安全に取り入れる方法について理解する。								
テキスト・ 参考図書等	無し 予防理学	無し 予防理学療法要論								
	評価方	法	評価割合(%)		評価基準					
	試験		100							
評価方法・	レポート	レポート								
評価基準	小テスト		0	定期試験により評価する。						
	提出物		0							
	その他		0							
履修上の 留意事項			長は社会の要請で 要な運動や栄養学						く役割がある。	
履修主題・			履修主題				履修P	内容		
履修内容		予防! 説	リハビリテーショ	ン概	ボ オリエンテーション 定義、領域、制度、研究法					
		理解	リハビリテーショ							
	1 3	予防リ 実際	リハビリテーショ	ンの						
	4	予防と	こ は							
	5	認知症								
	6	精神疫	実患の予防							
	/ /		ヹからみた予防リ -ション①	ハビ						
	V .		ダからみた予防リ -ション②	ハビ						

授業科目	健康増進科学 A	担当教員	池田保		道内の病院にて作業療法士とし
汉 耒付日	庭/永垣 匹 付子 X	実務 経験	有:■	無:□	て 10 年勤務
対象年次・学期	4年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務経験			

授業科目	理学療法	去演習I	ΙΒ		担当教員	竹中 謙将	竹中 謙将			
対象年次・学期	4 年・追	通 年		必任	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	45 回	時間数	90 時間		
授業目的	国家試験	餘全員名	合格を目指すため	、専門	見分野について	学習する。				
到達目標	模擬試	験で学習	習の定着状況を確	認した	ながら、国家試	験合格を目指す	0			
テキスト・ 参考図書等	PT・OT 国家試験共通問題 頻出キーワード 1800 必修ポイント専門基礎分野基礎医学									
	評価ス	方法	評価割合(%)			評価基	準			
	試験		0							
評価方法・ 評価基準	レポート 0			(수 3건 =	用師の中穴にし	リシケナマ				
正 四季年	提出物	100	漢 智記	課題の内容によ	り評価する。					
	その他									
履修上の 留意事項	国家試験		<u> </u>	であり	リ、基礎ともな	る内容であるた	め、繰り返し [,]	何度も復習して		
履修主題・			履修主題		履修内容					
履修内容	1	基礎理			過去問題を分		 を講義する。			
	2	基礎理	里学療法		過去問題を分	分析し、基礎項目	を講義する。			
	3	基礎理	里学療法		過去問題を分	分析し、基礎項目	を講義する。			
	4	基礎理	里学療法		過去問題を分	分析し、基礎項目	 を講義する。			
	5	評価法	Ė.		過去問題を分	分析し、基礎項目	 を講義する。			
	6	評価法	ŧ.		過去問題を分	分析し、基礎項目	を講義する。			
	7	評価法	Ę		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	8	評価法	Ė		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	9	運動療			過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	10	運動療	寮法		過去問題を分	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。				
	11	物理療	寮法		過去問題を分	分析し、基礎項目	を講義する。			
	12	物理療	· 療法		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	13	義肢物			過去問題を分	分析し、基礎項目	を講義する。			
	14	義肢物	長具学		過去問題を分	分析し、基礎項目	を講義する。			
	15	ADL			過去問題を分	分析し、基礎項目	を講義する。			
	16	ADL			過去問題を分	分析し、基礎項目	を講義する。			
	17	各領域	域の評価・治療		過去問題を分	分析し、基礎項目	を講義する。			
	18	各領域	域の評価・治療		過去問題を分	分析し、基礎項目	を講義する。			
	19	9 各領域の評価・治療 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。								
	20	各領域の評価・治療 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。								
	21	各領域	域の評価・治療		過去問題を分	分析し、基礎項目	を講義する。			
	22	各領域	域の評価・治療		過去問題を分	分析し、基礎項目	を講義する。			
	23	各領域	域の評価・治療		過去問題を分	分析し、基礎項目	を講義する。			

24	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
25	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
26	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
27	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
28	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
29	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
30	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
31	地域理学療法学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
32	地域理学療法学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
33	その他	模試など
34	その他	模試など
35	その他	模試など
36	その他	模試など
37	その他	模試など
38	その他	模試など
39	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
40	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
41	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
42	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
43	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
44	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
45	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。

授業科目	 	担当教員	山内真帆		道内の病院で理学療法士として
1文未行日	生于凉 <i>山</i> 庚日 II D	実務 経験	有:■	無:□	8年以上勤務
対象年次・学期	4年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	臨床実習IVA			担当教員	竹中 謙将				
対象年次・学期	4 年・後)		必值	修・選択区分 必修 単位数				
授業形態					授業回数	23 回	時間数	45 時間	
授業目的		引リハビリテーションまたは通所リハビリテーション提供施設において実習を行い、地域での 話を支えるための理学療法の役割を学ぶ。							
到達目標		ハビリテーションまたは通所リハビリテーション提供施設において、地域での生活を支え の理学療法の具体的な取り組みへの理解を深める。							
テキスト・ 参考図書等	臨床実習教育の手引き 第5版								
	評価方法 評価割合(%) 評価基準								
試験 0									
評価方法・	レポート		0	吃广中羽花道老小亚伍。中羽起生人小戏主山应。相山杨笙。					
評価基準	0	臨床実習指導者の評価、実習報告会の発表内容、提出物等を併せ、総合的に評価する。							
	提出物		25						
	その他		75			、2中羽でナーマの中羽の日梅でキュルト			
履修上の				期に位置付けられている実習です。この実習の目標である地域リハ 験を通じて学んでください。地域に暮らす対象者との交流を通じ え方が出来るようになってください。					
留意事項									
			履修主題	履修内容					
履修主題・ 履修内容	1	1 【第 1-45 回】 1.臨床実習			通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設において指導者のもと実習を行う。多様化する保健・医療・福祉・介護等のニーズに対応するため、通所または訪問リハビリテーション場面における見学、体験を通して、理学療法士の役割を知る。さらに地域包括ケアシステムの強化に資するための知見を得るとともに利用者ニーズを把握し、理学療法の役割を確認する。				

授業科目	臨床実習IVA	担当教員	有本	邦洋	道外医療施設にて理学療法士と
		実務 経験	有:▮	■ 無:	して6年勤務
対象年次・学期	4年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	臨床実習IVB			担当教員	竹中 謙将					
対象年次・学期	4 年・後			必但	※修・選択区分 必修 単位数					
授業形態					授業回数	23 回	時間数	45 時間		
授業目的		引リハビリテーションまたは通所リハビリテーション提供施設において実習を行い、地域での 話を支えるための理学療法の役割を学ぶ。								
到達目標		ハビリテーションまたは通所リハビリテーション提供施設において、地域での生活を支え の理学療法の具体的な取り組みへの理解を深める。								
テキスト・ 参考図書等	臨床実習教育の手引き 第5版									
	評価方法 評価割合(%) 評価基準 試験 0									
評価方法・	レポート		0							
評価基準					臨床実習指導者の評価、実習報告会の発表内容、提出物等を併せ、総合的に評価する。					
	提出物		25							
	その他		75			、2中羽で十、2の中羽の日悔でちていた				
履修上の				期に位置付けられている実習です。この実習の目標である地域リハ 験を通じて学んでください。地域に暮らす対象者との交流を通じ え方が出来るようになってください。						
留意事項										
			履修主題	履修内容						
履修主題・ 履修内容	1	1 【第 1-45 回】 1.臨床実習			通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設において指導者のもと実習を行う。多様化する保健・医療・福祉・介護等のニーズに対応するため、通所または訪問リハビリテーション場面における見学、体験を通して、理学療法士の役割を知る。さらに地域包括ケアシステムの強化に資するための知見を得るとともに利用者ニーズを把握し、理学療法の役割を確認する。					

授業科目	臨床実習IVB	担当教員	有本 邦洋	道外医療施設にて理学療法士と して6年勤務
		実務 経験	有:■ 無:□	しても平動物
対象年次・学期	4年・後期	担当教員		
授業形態		実務 経験		
		担当教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当教員		
		実務 経験		
		担当教員		
		実務 経験		
		担当教員		
		実務 経験		
		担当教員		
		実務 経験		
		担当教員		
		実務 経験		
		担当教員		
		実務 経験		
		担当教員		
		実務経験		